

協議会会員の紹介 宍道湖漁業協同組合



宍道湖の水産資源を守り、組合員が安心して操業できる環境づくり
宍道湖漁業協同組合は宍道湖で漁を営む漁師の団体で現在約620人の組合員があり、島根県から共同漁業権を免許され、組合員に行使許可を与えています。代表的なシジミ漁の行使許可者は260人です。水産資源の管理と水産動植物の増殖が漁協の柱となる事業ですが、他に水産資源の放流、宍道湖の水草除去、湖底清掃、シジミ消費拡大のためのPR事業などにも取り組んでいます。また小学生を対象にした環境学習も毎年行っています。また小学生を対象にした環境学習も毎年行っています。子どもたちへシジミ漁や汽水環境の大切さを伝える機会としています。

組合長の渡部和夫さんは長期に及んだ「宍道湖淡水化反対運動」にシジミ漁師として身を投じた一人です。「複雑な時代の流れに翻弄はされましたかが、淡水化反対運動があったからこそ今の宍道湖があります。当時は漁師たちが本気で宍道湖を守る、シジミを守ると取り組んでいました。先輩たちから受け継いだ宍道湖の漁業が地域の産業として、また地域の食材として評価されるよう、守り・活かしていくことが私たちの仕事」と言います。農林水産省地理的表示(GI)保護制度取得など宍道湖シジミのブランド化も進めながら、今後も宍道湖の水産資源を守り、組合員が安心して操業し、水産物を安定供給できるよう取り組んでいます。

宍道湖の大地の成り立ちと生物の豊かさ



現在の松江市や出雲市は、約1万年前は海面が現在よりも30~40m程度低く陸上でした。急激な温暖化に伴い、海面が急上昇し、約8,000~7,000年前には島根半島と中国山地は完全に離れ、現在の宍道湖や中海のところは海になりました。約6,000年前には出雲平野が発達し、また、出雲市の「稻佐の浜」から「菌の長浜」を経て神西湖周辺に続く砂浜」と、鳥取県の「弓ヶ浜」によって外海から隔てられました。約4,000年前には、三瓶山の火山活動による大量の土砂が神戸川を流れ下ったことで、出雲平野と島根半島がつながり、宍道湖と中海が形成されました。

このようにして形成された宍道湖は、中海を通じて日本海とつながっているため塩分濃度が海水の1/10程度の汽水湖です。広さは約7,910 haで国内7番目の面積を有し、中海との連結汽水湖としては国内最大の面積を誇り、その一部がラムサール条約に登録されています。水深は平均4.5 m、最深で6 mと面積に比べ水深が浅い湖で、太陽エネルギーを糧として植物プランクトンが豊富に繁茂し、それを餌とするさまざまな魚が川と海から集まっています。宍道湖に生息する生物は、このような極めて稀な弱汽水域の水環境や地形的な特性の中で、他の湖には見られないような特異な生態系をつくりだしています。

宍道湖の生物の特徴として、定着性生物種の少なさや移動性生物の多さ、特定種の猛烈な繁殖、近縁種の中海との棲み分け、宍道湖固有種の存在などがあり、その代表としてヤマトシジミやシンジコハゼ、シンジコスナウミナフンなどがあげられます。

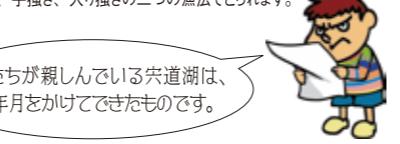
スズキ・モロエビ・ウナギ・アマサギ・シラウオ・コイ・ヤマトシジミは「宍道湖七珍」として親しまれ、特に朝のシジミ漁の風景は、宍道湖の風物詩となっています。



1年間で宍道湖でとれる水産物の90%以上がヤマトシジミです。



シジミは機械搔き、手搔き、入り搔きの三つの漁法でとられます。



ぼくたちが親しんでいた宍道湖は、長い年月をかけてできたものです。

現在の松江市や出雲市は、約1万年前は海面が現在よりも30~40m程度低く陸上でした。急激な温暖化に伴い、海面が急上昇し、約8,000~7,000年前には島根半島と中国山地は完全に離れ、現在の宍道湖や中海のところは海になりました。約6,000年前には出雲平野が発達し、また、出雲市の「稻佐の浜」から「菌の長浜」を経て神西湖周辺に続く砂浜」と、鳥取県の「弓ヶ浜」によって外海から隔てられました。約4,000年前には、三瓶山の火山活動による大量の土砂が神戸川を流れ下ったことで、出雲平野と島根半島がつながり、宍道湖と中海が形成されました。



宍道湖七珍料理

編集後記

このたびの能登半島地震で被害に遭われた皆さんに、心よりお見舞い申しあげますとともに、被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り申しあげます。この地震は逆断層型の活断層による地震で、当地域にも同じような活断層があるため、対岸の火事ではないと考えています。いつ発生するか分からない自然災害に備え、地域住民の防災に対する意識を高めるため、ジオパークとしても防災・減災教育を進めていきたいと考えます。

発行者：島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会

[松江市役所 文化振興課 ジオパーク推進室]

〒690-8540 島根県松江市末次町86番地

TEL : 0852-55-5399

E-mail : kunitiki-geopark@city.matsue.lg.jp

[出雲市役所 政策企画課 プロジェクト推進室]

〒693-8530 島根県出雲市今市町70番地

TEL : 0853-21-6079

E-mail : project@city.izumo.shimane.jp



島根半島・宍道湖中海ジオパーク 日本ジオパークネットワーク

島根半島・宍道湖中海

ジオパーク通信



島根半島・宍道湖中海ジオパーク



Geoparks Japan

日本ジオパーク

出雲国風土記の
自然と歴史に出合う大地

2024.2

Vol.7

国引き神話とジオパーク／ジオサイト紹介／桂島

1

協議会の活動・ガイド研修／築地松島観保全対策推進協議会の取り組み

2

アクティビティ紹介・合同会社 LOCOBLUE／南紀熊野ジオパーク紹介

3

ジオパーク推進協議会会員紹介／宍道湖の大地の成り立ちと生物の豊かさ

4

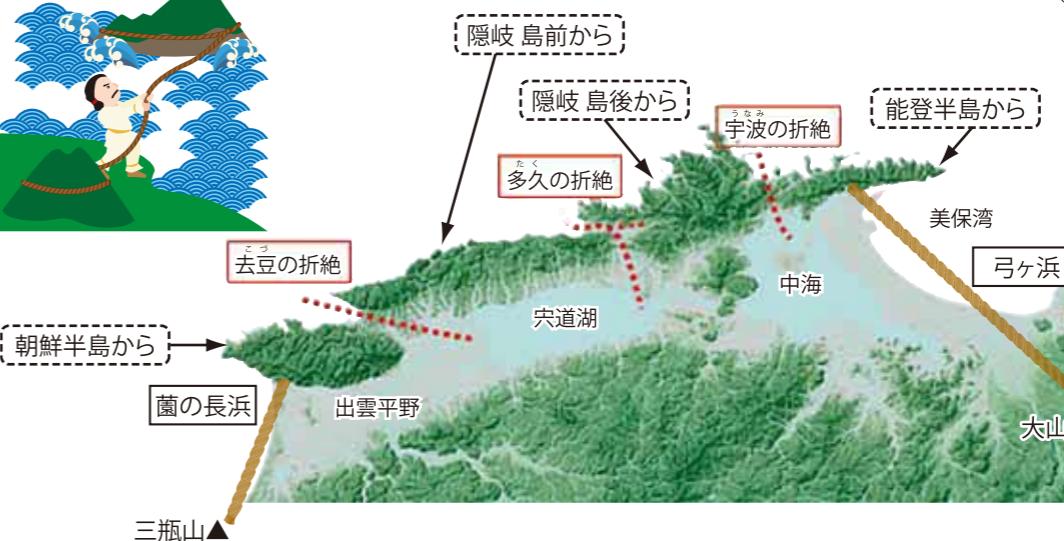
昔の人の洞察力は
すごいですね。

©DLE

出雲国風土記の冒頭に書かれた「国引き神話」では、八束水臣津野命という神様が、出雲の国は小さくつくりすぎたといって、4回も土地を引っ張ってきて、出雲の国をつくったとされています。國を引っ張った綱が「菌の長浜」と「弓ヶ浜」で、綱を結んだ杭が「三瓶山」と「大山」でした。

神話の舞台である島根半島は、宍道褶曲帯と呼ばれる大規模な地殻変動が起ったことを示す地質構造で、出雲国風土記では引き寄せた陸塊がつなぎ合った場所を折絶と呼び、その場所は地殻変動で

国引き神話とジオパーク～国引きの大地の魅力～



りくかい
模な地殻変動が起つたことを示す地質構造で、出雲国風土記では引き寄せた陸塊がつなぎ合った場所を折絶と呼び、その場所は地殻変動でできた大規模な断層や褶曲の起つた場所、岩石の種類が異なる地層の境界部分に相当しています。また、出雲国風土記で神様が陸塊を網で引く様子は、約4,400万年前から約1,700万年前の大陸から日本列島が分裂する地球科学のプレート運動に似ています。

約1,300年前の古代人は、変化する大地の魅力を出雲国風土記に国引き神話として描きました。島根半島・宍道湖中海ジオパークは、「国引き神話と大地の成り立ちがつながる神秘のエリア」で、地質遺産と歴史・文化が織りなす神秘の世界でかけがえのない感動体験ができることが最大の特徴となっています。

海水浴などで楽しんだら、ごみは持ち帰ろう。



ジオサイト見どころ紹介シリーズ7 桂島(かつらしま)



加賀観光協会会長
認定ジオガイド
やまだ かつひこ
山田 和彦さん



桂島全景。奥に位置する櫛(くし)島とは江戸時代に築かれた石積みの防波堤でつながっています。

くけど
「信仰の対象としての潜戸と北前船などの海運業を支えた桂島は、昔々から加賀地区の人々の暮らしと密接に結びついたところです」と語る山田さん。加賀観光協会はこのような歴史的な価値や景観を継承しようと、昭和30年代初めから加賀浜地区の皆さんによって活動が続けられています。また、このような自然や歴史的な価値を地域の人々と学ぶために、加賀まるごと博物館活動にも取り組み、専門家を招いた様々な学習会の開催や学習場所の整備等も行われています。

「桂島は身近なジオサイトとして、海底火山の痕跡や海辺の学習、快適な環境での海水浴やキャンプ等の体験活動ができるところ、潜戸遊覧船と併せて地質や歴史の魅力が詰まったところです」と山田さん。しかし、近年は海水温の上昇や潮流の変化等による砂浜の消失や磯の生き物の変化、そして大量の漂着ごみが大きな悩みとのこと。「海辺の環境について抜本的対策を講じて欲しい。特に大量に押し寄せる漂着ごみについては、プラスチックごみを無くすためにも発泡スチロール製のパイの素材を代えるなどして海を守る、海の生き物を守ることをしなければならない時期に来ている」と警鐘を鳴らします。

ジオガイドの研修会を開催しました

1月20日(土)にジオガイド養成講座受講者とジオガイド19名を対象に「ジオガイドの心構えと手法」について、日本ジオツーリズム協会の福島大輔会長に実践的で分かりやすい内容で研修を行っていただきました。ガイドに必要な要素として、T(テーマ性)、O(構成)、R(関連性)、E(楽しい)を示されるなど、今後のガイド活動に生かされる有意義な研修となりました。

また、ジオガイドの認定期間は4年間としており、認定期間を更新する場合は、ガイド本人の意向を確認の上、研修を受講いただくことで、さらに4年間認定を受けることができます。今年度認定期間の更新を希望されるジオガイド等11名を対象として、2月3日(土)に認定更新研修を開催し、3本の講演を行いました。最初は、出雲国ジオガイドの会事務局長の三代隆司さんに「出雲平野の成り立ちとたら製鉄」「島根半島の北前船の概要とくらし」等について、続いて、ジオパーク専門員の野村律夫さんに「当地域の地質地形の基礎」について講演いただきました。

最後に、日本ジオパーク委員会委員である高知大学人文社会科学部講師の新名阿津子さんに、ジオパークの理念や歴史、トレンドについて楽しく、分かりやすく講演いただきました。

ジオガイドの皆様には、今回の研修をふまえ、今後さらに活動を充実され、活躍されることを期待しています。



出雲国ジオガイドの会 三代事務局長の講演



野村専門員の講演



高知大学 新名講師の講演

ジオガイドは、ジオパークの魅力を発信するために必要不可欠!



築地松のある景観を将来に残す、PR活動にも尽力 築地松景観保全対策推進協議会の取り組み

出雲平野には築地松の家々が点在する散居集落の景観が広がります。斐伊川の氾濫による水害や冬の季節風から家屋を守るために築かれた築地松は、この地域の大地上につながる歴史や生活文化を物語る重要なものです。

平成23年に発生した松くい虫の猛威等により、築地松の本数や所有戸数は当初から半減(平成11年3,380戸→令和2年1,264戸)しましたが、当協議会で松くい虫防除や剪定などの経費補助、補植用の黒松苗を無料配布するなど築地松景観の保全と継承に取り組み、現在のところでは、被害も減少し落ち着いている状況です。



フォトコンテスト受賞作品「築地松の日の出」藤井勝彦



陰手刈り(のうてごり)という剪定の技術研修の様子

また築地松独特の形を保つため陰手刈りという剪定の研修も実施するなど、陰手刈り職人の後継者育成にも努めています。今年は協議会発足30周年記念としてフォトコンテストを開催する他、パンフレットやホームページでのPR、ボランティアガイドによる築地松の案内など普及啓発活動にも力を入れています。

今後も協議会では築地松を後世に残していくため、住民と行政が一体となって築地松の保全に努め、全国に誇れる貴重な景観財産である築地松を広く発信し、散居の特性を生かした持続可能なまちづくりを推進していきます。

ジオガイドは、ジオパークの魅力を発信するために必要不可欠!



オレモフォトコンテストに応募するぞ。

築地松のある景観を将来に残す、PR活動にも尽力 築地松景観保全対策推進協議会の取り組み

海のアクティビティ紹介 カフェ & スクーバダイビングサービス LOCOBLUE



合同会社LOCOBLUE代表
もりひろ かずなり
森廣 一作さん



お問い合わせ先
LOCOBLUE
松江市島根町野波1169 TEL0852-40-9271

すぐ目の前に野波浦の美しい海が広がり、一帯は野波海浜公園として整備された島根町野波地区の海岸道路沿いに青と白を基調とした「LOCOBLUE」があります。広島でダイビングインストラクターをしていた代表の森廣さんは島根町の海の魅力にひかれIターンし、自らの活動拠点を野波に移しました。「海の透明度の高さ、地形や浜の美しさ、そして魚の種類も多く、ここは凄い海だと感動しました」と言います。「LOCOBLUE」ではビギナー向けのスノーケリング、スクーバダイビング、ライセンス取得講習、一般向けのファンダイビング、ツアーダイビングなど多彩なダイビング体験を揃える他、サンセットクルーズなどボートクルージングで野波浦一帯の魅力を体験できるプランも用意。カフェやゲストハウスなどでアフターダイビングの時間も楽しく過ごせるよう飲食にも力を入れています。「ビーチクリーニングを参加者を募って毎月行い、回収したプラスチックゴミをアクセサリーに加工したり、カフェの食材や容器なども自然を意識したものを取り入れるなど環境コンシャス、SDGsにも配慮した運営を心がけています。この豊かな自然があつてこそLOCOBLEUEです。野波の地域と海に感謝し、お客様も環境の大切さを意識していただきながら海の自然を楽しめる多彩なメニューを提供していきたい」と話してくれました。



ハトロックと呼ばれる岩も人気スポットのひとつ



ビギナーでも楽しめる遠浅、砂地で安全な野波浦がダイビングエリア



常駐するジオパークガイドがジオパークの魅力や地域の旬な情報を伝えています。



フェニックス褶(しゅう)曲では折りたたまれるように曲がった地層が観察できます。
橋杭岩には過去の巨大地震による大津波によって運ばれたと考えられている津波石が見られます。

海の自然を楽しめる多彩なメニューが体験できますね。



ジオパークセンターがある串本町は本州最南端の地です。

